

大阪・すみよし まるごと紹介します

SUMIYOSHI
EXPO

すみ博ガイド

WEB版

歴史・文化・ひと・まち・グルメ…いろいろ
すみよしが「まるごと」つまったガイドブック

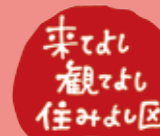
笑芸人をひきつけた街「住吉の笑芸人たち」

写真募集 第2回「私の好きな すみよし」発表!!

大阪市住吉区
「平成29年度すみよしの魅力PR補助事業」

企画・発行
すみよし博覧会実行委員会

発行日
2017（平成29）年9月



住吉の笑芸人たち

2017年秋のNHK連続テレビ小説「わろてんか」は、吉本興業の創業者吉本せいをモデルに明治後半から第2次世界大戦直後の大阪を「笑いの都」にしていった夫婦の物語です。

ドラマにも登場する初代桂春團治や横山エンタツなど、吉本興業の発展を支えた人たちのすみかが住吉にありました。劇場・演芸場があったミナミ・道頓堀界隈からも交通の便がよく、古くから庶民の街だったことが笑芸人たちをひきつけたのかもしれません。



大学時代の秋田實・長沖一・藤澤桓夫（左から）
提供：季刊『大阪春秋』編集室

藤澤と大阪朝日新聞社学芸部白石凡との引き合わせでエンタツ・アチャコに初めて会ったのが昭和6年のこと。従来の低俗な万歳を変えたいというエンタツの熱い思いに共感した秋田實はそのブレインとなって近代的なしゃべくり漫才をつくりあげていきました。

秋田 實 (1905年 - 1977年)

漫才をつくりあげた
秋田實・長沖一と住吉

秋田實と長沖一、作家藤澤桓夫は、当時住吉村と天王寺村の境界にあった旧制大阪高校で出会い、ともに東京帝国大学文学部に入学して学生生活をおくりました。三人の友情は固く、昭和8年に帰阪して以来住吉の地を離れなかつた藤澤の家を拠所とした交流が生涯続きました（25頁「藤澤桓夫邸」参照）。

横山エンタツ

1896年 - 1971年

住吉大社南側の墨江1丁目に住んでいました。

自然体の会話だけで笑いを取るしゃべくり漫才を作り上げたのが「エンタツ・アチャコ」のコンビ。二人は背広を着て舞台上に立った初めての漫才師でもあります。アチャコの入院によりわずか4年あまりで、寄席でのコンビを解消したものの、その後も映画での共演は続け、戦後は二人ともNHKのラジオ番組でも活躍しました。

花紀 京 (1937年 - 2015年)

横山エンタツの次男。住吉大社の近くで育ちました。

吉本新喜劇の看板スターとして活躍し、ニット帽、腹巻、ニッカーボッカーを着用して相方の岡八郎と交わし合う絶妙のボケとツッコミはまさに吉本新喜劇の醍醐味でした。（写真4頁下段）



左から花菱アチャコ、横山エンタツ 提供：吉本興業

「漫才」はもと「万歳」と書かれていました。めでたい言葉を詠って家の繁栄と長寿を祈る伝統芸能「千秋萬歳」がその起源で、小倉百人一首の撰者である藤原定家の『明月記』（鎌倉時代初期）などにも記録されています。この伝統を受け継ぐ「三河万歳」や「尾張万歳」では扇を手にした「太夫」が言祝ぎ歌を詠い、鼓を持った「才蔵」が伴奏と

滑稽を担当します。近代漫才でも「砂川捨丸・中村春代」は最後までこの形を受け継いでいました。二人の会話だけで漫才を成立させるのが「しゃべくり漫才」で、吉本興業の林正之助がコンビを組ませた横山エンタツ・花菱アチャコが作家秋田實の協力を得て完成させていったのです。

昭和9年に吉本興業に入社、文芸部に所属して雑誌「ヨシモト」を創刊、下ネタに頼らず家族みんなが楽しめるストーリー重視の漫才台本を提供していきます。生涯に書いた漫才は1万本。育てた漫才師には自らの名前を付けた秋田Aスケ・Bスケや蝶々・雄二、いとし・こいし、ワカサ・ひろし、お浜・小浜など。多くの笑芸人から慕われ、近代漫才の父として生涯を終えました。

長沖 一 (1905年 - 1967年)

秋田の後を追って昭和10年、吉本興業に入社。昭和12年からは文芸部長となり、社内「漫才学校」を作って漫才師の育成に力を注ぎました。

姫松（現阿倍野区帝塚山1丁目）に居を構え、戦後NHKのラジオドラマ作品「アチャコ青春手帳」「お父さんはお人好し」が大ヒットして人気作家となりましたが、次第に教職活動に重点を移し、帝塚山学院大学文学部長、帝塚山学院短期大学学長を歴任しました。



NHK最高人気番組の映画化！「お父さんはお人好し」1955年

原作／長沖一
出演／アチャコ・浪花千栄子ほか
ロケ地は、天下茶屋、帝塚山、住吉大社など

「大阪詩情住吉日記・ミナミわが街」より

「墨江へ引越してきたのは、その以前の私が中学生のころで、いきなり、内玄関の格子戸をガラリとあけて、「ごめんやす。こんど近所へきた石田ですわ。クリーニング屋、紹介しとくなはれ、ワイシャツが七枚も溜まってまんね」それが素顔のエンタツつあんどの、初対面だった。」

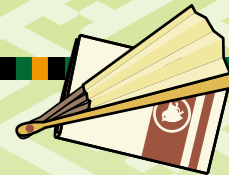
石濱 恒夫

(1923年 - 2004年)

墨江2丁目に住んだ作家で、「こいさんのラブ・コール」などの作詞でも知られる石濱恒夫の著作「大阪詩情住吉日記・ミナミわが街」には地元で出会った文人墨客の思い出が綴られています。

「小学生のころ、住吉大社の南側、御田の並びに、春團治の家があって、おっちゃんこの襖にも屏風にも、おもしろい絵を貼ったんで、ゆけへんか……と誘ったのは、やはり、その近くに住んでいた浪曲師、二代目吉川秋水の息子である、同級生だった。」

- ### すみ博ガイド 2017
- 2 住吉の笑芸人たち
横山エンタツ・花紀京
秋田實・長沖一・石濱恒夫
初代春團治・三代目春團治
六代目松鶴
地元民は見た！
- 6 私の好きなすみよし
すみよしの「ええトコ」写真発表！！
- 8 すみよしを歩こう
住吉区・帝塚山&住吉大社周辺MAP
住吉の街道
熊野街道 磯田津路
万葉集と住吉
- 12 住吉つさん 住吉大社境内
御利益満載！初辰まいり
住吉大社境内コース
- 14 歴史と祈りのまち住吉を歩く
大社周辺コース
- 16 昔のおもかげを伝える
町家や長屋の佇まい！住吉界隈！
住吉の古仏をたずねて
100年の歴史を刻む
レトロモダンな町！帝塚山界隈！
帝塚山コース
- 20 ナウマンゾウがいたあびこ・刈田あびこ・刈田コース
- 21 古き歴史の残る遠里小野
遠里小野コース
- 22 すみ博ぐるめ
住吉大社周辺 帝塚山・上住吉
我孫子・長居・沢ノ町
うろうろく石
藤澤桓夫邸「西華山房」跡顕彰碑
- 26 すみ博ちゃん電おはなし電車
ちん電はみんなの街のたからもの
住吉歳時記
DVDでみる住吉の魅力
ご協賛いただいた方々
- 30



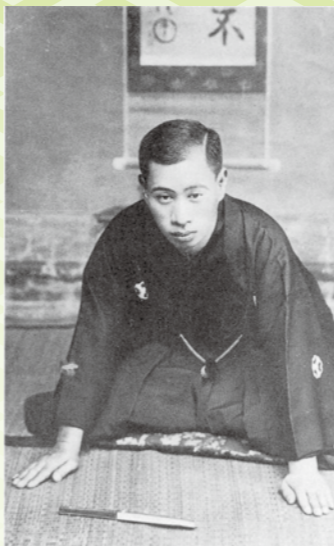
撮影：後藤清

六代目
笑福亭
松鶴



三代目
桂
春團治

出典：芸能生活50周年記念写真集
『三代目桂春團治』
(後藤清、弘文出版、1996年3月)



初代
桂
春團治

提供：吉本興業

上方落語四天王

第2次世界大戦後、四代目桂米團治らの名人たちが昭和20年代に相次いで亡くなり、一時は「滅亡した」といわれた上方落語の復興に尽力し「四天王」と称されたのが、六代目笑福亭松鶴、三代目桂米朝、三代目桂春團治、五代目桂文枝の4人です。そして、そのなかの2人が住吉に住んでいました。

上方落語四天王の一人。酒を題材に取った「らくだ」など噺や芝居噺を得意とし、迫力のある語り、酔態や子どもの表現の上手さに定評がありました。

(1918年—1986年)



松鶴の帝塚山旧住居は、弟子の笑福亭鶴瓶が買い取って改築。寄席小屋「無学」となって、月1回「帝塚山無学の会」という落語会や演芸、トークライブなどのイベントを開催しています。

上方落語四天王の一人。自宅は遠里小野3丁目にあります。29歳で父親の名跡を継いで三代目春團治を襲名。磨き込んだ少数のネタを大切に「枕」を振らずにいきなり本題に入り、淡々としながら艶を感じさせる語り口で人気を博しました。羽織の脱ぎ方の鮮やかさ(両手でそれぞれ袖口をつかみ一瞬の間に後ろ手に落とす)は他の噺家を羨ましがらせ、いつ見てもほれぼれするものでした。

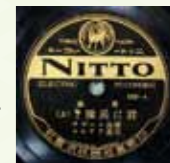
(1930年—2016年)

爆笑王の名をほしいままにする一方で、八方破れとも後家殺しとも呼ばれたのが初代桂春團治。借金が払えず差押えに来た執達使に「この家で一番値打ちのあるのはワイの口や」と自分の口に差押札を張った姿が新聞に載り、人気がいっそう高まったというエピソードはよく知られています。高津町に住んでいましたが、晩年は住吉に居を移しました。レコードを活用したことも有名で、住吉大社の南側にあつたニットーレコード等に大量の吹き込みを行いました。1925年には同レコードの協力のもと、「聴き飽きたら食べる」を売りに本物の煎餅でレコードを作ったものの値段が高かったため全く売れず大損をしたそうです。

(1878年—1934年)

ニットーレコード

(日東蓄音器)



戦前のレコード業界には大手5社(ビクター、コロムビア、テイチク、キング、ポリドール)以外に「ツバメ印」のニットーレコードと「ワシ印」のニッポホンがありました。

ニットーレコードは大正9年3月、大阪府東成郡墨江村上住吉に「日東蓄音器株式会社」として設立され、大ヒットとなった「道頓堀行進曲」などの歌謡曲だけでなく、落語・漫才・浪曲・浄瑠璃・長唄など幅広いジャンルのレコードを制作しました。

本社と吹込み所は現在の浅沢社の西側にあり、初代桂春團治、エンタツ・アチャコ、広沢虎造などの芸人たちもここで吹込みを行いました。



粉浜出身の俳優の三林京子さんは、落語家の三代目桂すずめさんです。「舟の市 住吉寄席」に出てはります。

目撃情報は、まだまだありますが、今回は、このぐらいにとしますわ。(すみよし博覧会実行委員会)

協力 地元のみなさん

粉浜商店街 丁さんの目撃談！

生根神社からちょっと行ったところに風啓介さんが住んでいました。うちに買い物に来てくれたとき、あまりにも真面目な顔で……テレビのイメージと違っていましたね。

鶴瓶ちゃんも、よう商店街を通過しました。もじゃもじゃのアフロにオーバーオールを着て、子どもさんを肩車していました。あれが太郎君やったんですかね。

子どものころ、住吉団地の児童公園で遊んでたら、西川きよしさんもお子さんと一緒に遊んでいました。

「すみよし博覧会実行委員会」委員長 住吉2丁目 岡本惣治の目撃談！

墨江小学校に通ってたときやから昭和20年代のなかばですか、家の前の道を新聞で口元を押さたエンタツさんがよう通ってました。トレードマークのヒゲ隠したら見つかれへん、と思ってたのか……。「あっ、エンタツのおっちゃんや」ってバレバレでしたわ。

藤澤さんも見かけました。作家の先生やから、あんまり外へは出ないのか色が白うて目立ちます。「物書きのおっちゃん、散髪行きはるわ」って言うてました。

浪曲の日吉川秋水さんも近くに住んでましたね。暁伸さんも「アーイーヤー」がはやる前は、住吉公園の演芸会に出て、うまかったですわ。

ほんまに、私らが子どもの時は、ようさんの芸人さんが住吉に住んでました。

清水丘2丁目 丁さんの目撃談！

安立町「浪花湯」の向かい側に住んでいたのが漫才の暁伸・ミスハワイ夫妻。買い物姿のミスハワイさんはお化粧をしていなくて顔が黒く見えてびっくりしました。(昭和30年過ぎ)

帝塚山西4丁目 1さんの目撃談！

ゼンジー北京さんが万代池でランニングしているのをよく見かけました。

中学のときの先輩のお母さんが吾妻ひな子さんでした。生根神社の近くに住んでましたよ。

原哲男さんがちん電の東粉浜電停付近でタクシーをひらってのはよく見かけました。



「豆めし廣田家」大木戸 豊さんのこの1枚

墨江に住んでいた花紀京さんがアチャコさん、岡八郎さんと食事に來られたので記念写真を撮らせていただきました。一緒に写っているのは、アチャコさんらが来ると聞いて集まった私の家族と親戚と仲居さんです。

中央がアチャコさん、小さい子を膝にのせているのが花紀京さん。後方の男性が岡八郎さん、その前が中学生の私。昭和42年ごろです。



地元民は見た！
目撃情報多発！



私の好きな すみよし

第2回「私の好きな すみよし」写真募集。今回も、すみ博実行委員会に101点の「すみよしのええトコ」が届きました。フォトインストラクターの北岡均さんとすみ博実行委員会が楽しみながら、悩みながら選んだ今年の「すみよしのええトコ」は、これです。

こんな「すみよし」好きやねん！ すみよしの「ええトコ」写真発表します！！



春の住吉大社、盛を少し超えた桜の向こうを昭和3年生まれの161形が行く。
2017.4.14 住吉大社



願い事叶いますように…… 毎年、子の願い事に成長を感じる7月7日。
2017.7.7 生根神社



住吉大社 神輿洗神事での鳴りかんの写真。 2017.7.21 住吉大社



住吉祭の様子を撮りました。太鼓橋から撮影しました。大勢の人で活気にあふれた様子が伝われば良いなと思います。
2017.7.31 住吉大社



まだまだ新年の雰囲気漂う住吉大社内、立派な大樹がありおみくじを大樹と共に願っている様でした。
2017.1.4 住吉大社内



卯之葉神事の石舞台での舞楽です。古き伝統をうけつぎ、古式ゆかしい衣装とうっとりする雅楽の音色にしばし時を忘れました。
2017.5.4 住吉大社



ハローキティのラッピング電車が住吉鳥居前を通り過ぎる。
2017.2.15 住吉大社



とても美しい景色です。 2017.8.1 住吉大社



「こんなところにお地藏さんが」とスマホで撮ろうとしたら、お母さんと一緒に通りかかった小さい男の子が自然に自分から手を合わせてお参りしたのが可愛くて、ついとっさにそのまま撮ってしまいました。親御さんが普段から、ここを通るたびに日々お地藏様に見守って頂いてる感謝を言い聞かせてるのだからと微笑ましく思いました。
2017.2.2 道安地藏尊（東粉浜2丁目南歯科前）



地元の住吉大社に桜を見に行っったときの写真です。たいこばしを撮影し、その中で一番お気に入りの写真なので今回応募させて頂きました。
2017.3.27 住吉大社（たいこばし）



レンゲ de すみ博 かんなくずプールで遊ぶ子どもたちの向こうには結婚式の行列が通ります。
2017.5.5 住吉大社境内

今年も作者の思いが詰まった作品が届けられました。作品を観ていますと、「すみよし」ってええなあとつくづく思います。
選ばせていただいた基準は、「すみよし」を感じさせるもの、動きや微笑まじさが伝わってくるものです。
写真は構図が大切ですが、この企画はフォトコンテストではありませんので、「すみよし」を愛する気持ちが一番大切です。そして、その愛する気持ちがオシャレに活かされていることがポイントです。来年も力作を期待しています。

おめでとございます。
北岡均
（一般社団法人日本写真講師協会
フォトインストラクター）

ちん電は みんなの街の たからもの



「住吉祭」復活した大神輿が、ちん電に沿って南へスタート

愛称は「ちん電」。地元の人から観光客まで、長年にわたり親しまれている阪堺電車。

住吉大社の目の前を通っているのは阪堺線。恵美須町から紀州街道に沿い堺市の浜寺駅前まで14.1kmの路線です。

住吉から天王寺駅前までの4.4kmを走っているのは上町線。

ともに100年を越える長い歴史を持っています。



「LOVES ♥ すみよし」キャンペーン 大好評だったキティちゃん電車



まもなく90歳を迎える161形電車 新線切替時のあべの筋にて



思い出の住吉公園駅（昭和57年）



電車でボージョレ・ヌーボー
阪堺電車は旅行企画課を新設し、さまざまなプランを実施しています

全線1日フリー乗車券 てくてくきっぷ

天王寺駅前・新今宮駅前・我孫子道
・浜寺駅前の各乗車券発売所
と電車内で発売中

通年発売

阪堺電車全線、一日乗り放題
大人600円・小児300円

製作協力：NPO法人RACDA大阪・堺
写真撮影、資料所蔵：工藤寛之

NPO法人RACDA大阪・堺

阪堺線堺市内区間の廃止危機に際し、2010年2月、阪堺線存続検討ワーキンググループとして提言書を発表。以降、阪堺電車（阪堺線・上町線）を中心とした交通および沿線の活性化を主題とし、沿線清掃、フォーラム開催、貸切電車の企画、地域市民組織との連携、全国交通研究団体との交流などの活動を行っている。

2011年より現名称、同年夏にNPO法人化。

事務局：大阪府堺市堺区 代表者：福井隆一郎



「第19回 路面電車まつり」のフラッグ
毎年6月に「路面電車まつり」は開催している